

平成 19 年度生 入学試験過去問題

[特待生入試]

国語

学校法人 神戸創志学園

関西健康科学専門学校

平成一九年度生 入学選考試験 国語 「特待生入試」

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

デカルトが述べたことで、科学の発展にとって非常に重要だったことは、世界の真実の状態と、我々が五感で認識する世界の状態とは必ずしも同じものではないかもしれないという指摘にある。私たちは、地面の上に空が広がり、空は青くリンゴは赤いと認識するが、^① そうやって私たちが認識する通りのものが、**A** 世界の物質の実体であるとは限らない、と彼は指摘した。

このことは、デカルト以前の時代には、はっきりと認識されてはいなかった。物体が落ちるのは、まさに「上から下」に向かつて落ちるのであり、色には、私たちが見るとおりの「赤」なら「赤」の本質というものがあると思われていたのである。事実は、^② ニュウ引力の法則によって物体が互いに引き合うのであり「上から下」へは、たまたま地球が非常に大きいために、地上のものはみな地表に引きつけられるから起こることである。色も、実はいろいろな波長の電磁波であり、私たちの網膜の細胞に^③ カンキされるインパルスの違いが、異なる色として認識されるだけである。

^④ これは、デカルトのたいへんな慧眼であつたと私は思う。人間は、**B**、自分自身についての現実から^⑤ ノがられないものだ。自分の実感と世界の真の姿との間に、なんらかのずれがあるかもしれないなどと気づくのは、並大抵のことではないだろう。

しかし、そこで次にまた^⑥ 疑問がわく。私たちの世界の認識は、世界の真の姿とは関係がなく、**C** 特別な根拠のない把握の仕方なのだろうか。それとも、まったく同じものを把握しているのではないとしても、私たちの世界の認識は、なんらかの形で真実と対応した認識の一形態なのだろうか。つまり、私たちの世界の認識の仕方は、まったく無作為、任意の、たまたま^⑦ グウハツ的になされる勝手なものなのか、それとも、なんらかの真実との対応を持っているものなのか、ということである。これは、科学的知識の確かさについての、昔からの議論の題材である。

しかし、私はそうは思わない。私たちが世界をどのように認知するかは、^⑧ 私たちという生物種が、ある特定の生態学的位置の中で生存していく上で、役に立つような仕方に作られているはずだ。私たちは、空を飛ばずに地上を歩く生物なので、^⑨ 三次元的なアクロバティックな運動や感覚には^⑩ スグれていない。一方、昼間に活動する生物なので、色や明暗の識別には^⑪ 長けている。その意味では、私たちの感覚世界は制限を受けている。しかし、私たちの認識は、確かに、世界の真実の一部と対応している。

ミミズは私たちとは大いに異なる生活様式を持つているから、私たちとは大いに異なる世界の認識をしているだろう。^⑫ ミミズの認識する世界を、私たちは実感することはできないだろうが、ミミズの認識も、世界の真実の一部に対応しているはずだ。

※インパルス…刺激。

※慧眼…鋭い眼力。

(長谷川眞理子『科学誌の舞台裏』より)

問一 傍線部①のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部②と③の意味で正しいものはどれか答えなさい。

㊦ 三次元

ア 直線的空間 イ 平面的空間 ウ 立体的空間 エ 時間的空間

㊧ 長けている

ア 著しい特徴がある イ きわめて有利である
ウ 十分に成長している エ 力が十分に備わっている

問三 空欄A～Cに入る適当な語句の組み合わせを、次から選びなさい。

ア A まさに B なかなか C なんら
イ A なかなか B まさに C なんら
ウ A なんら B なかなか C まさに
エ A まさに B なんら C なかなか

問四 次の一文を本文に付け加えるとすればどこに入れるのが適当か。直前の一文の文末を五字で抜き出しなさい。句読点を含む。

さらに、最近のポストモダンの相対主義者ならば、科学も、ある個人の認識も、すべては、単に一つの見方、勝手な構築にすぎないと言うのだろう。

問五 傍線部④「そうやって私たちが認識する」とはどのようにして認識することか。文中から十字以内で抜き出しなさい。

問六 傍線部⑤「これ」のさす内容を文中から五十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字で答えなさい。句読点は含まない。

問七 傍線部⑥「疑問」に対する筆者の解答が述べられている部分を、文中から三十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字で答えなさい。句読点は含まない。

問八 傍線部⑦は具体的にはどういうことか。文中の語を用いて二十五字以内で説明しなさい。

問九 傍線部⑧で筆者が述べようとしているのはどのようなことか。六十字以内でまとめなさい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

先日何げなくテレビのスイッチを入れたところ、南フランスの港町セートで伝統の水上稽試合があり、日本の一青年がこれに挑戦した。モヨウが紹介されていた。選手たちの楽隊付きのパレードが、にぎやかに町中を

⑨コウシンすると、窓という窓は見物の市民たちの顔や立ち姿で、埋めつくされる。

このような窓の風景は、カーニバルその他のお祭りのとき、ヨーロッパではしばしば見かけるものであるその窓から、紙吹雪が飛ぶこともある。私たちにそのシーンが印象的なのは、日本で⑩そのような情景はきわめて珍しいからである。

、珍しいのであろうか。それは日本の場合、最近ビルなど、空調のために窓ガラスの開け閉めが自由できないということだけではない。私たちにはそもそも、窓から熱心に外を見ろという慣習がないのではないか。それはヨーロッパの窓が縦長であるのに対し、わが国の窓が横長であるという、窓の形の問題に大きくかかわっていると思う。

すなわち日本の建築物では、たとえ^㉑ツツキンコンクリートの公団住宅や高層ビルの場合でも窓は二枚のガラス戸を横に引く方式が多く **C** 窓全体の形は横長である。これに対してヨーロッパの窓は、縦長の窓を真ん中から縦に二分し、それぞれのガラス戸を手前に引いたり、 **D** 縦長の窓を上下に二分して、それぞれのガラス戸を上げ下げして窓を開ける。すなわち、日本の窓が多く寝そべっているのに対し、ヨーロッパの窓は起き、立ち上がっている。しかしヨーロッパの窓について、日本の窓と何より違うなど思うのは、その縦長の窓に、^㉒しばしば人がいることである。それも女性の場合が多く、窓からじっと^㉓オウライとか公園などの人を眺めている。「窓辺の女」ほ、映画にもよく出てくるシーンであり、フローベールは次のように言っている。「田舎では、窓が劇場や散歩の代わりをする」

このことは、百年以上たった今日でも、ヨーロッパでは少しも変わっていない。私たちが窓を風通し、そして明かり取りのためにつけているのは、大きな相違である。ヨーロッパの窓は、外の風景を見て楽しむための、恰好の^㉔カンラン席である。

(木村尚三郎『静かな時間にしひがし』より)

問一 傍線部^㉑、^㉒のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 空欄Aにあてはまる語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 山盛りに イ 鈴なりに ウ 帯状に エ 点々と

問三 空欄B、Dにあてはまる語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア あるいは イ それとも ウ なぜ エ したがって オ けれども

問四 傍線部^㉑の理由として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 日本にはカーニバルのようなお祭りがないから。
- イ 日本では最近窓ガラスの開閉が不自由になったから。
- ウ 日本には窓から熱心に外を見る慣習がないから。
- エ 日本では窓の形が横長だという問題点があるから。

問五 傍線部^㉒は、下どの語にかかるか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人が イ いる ウ ことで エ ある

問六 ヨーロッパの窓と日本の窓について、その目的や役割などをそれぞれ十字以内で答えなさい。句読点は含まない。

平成一九年度生 入学選考試験 国語 「特待生入試」

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いまから十三年前、私は友人と二人して、ある私立大学を受験するため上京した。世の受験生と同様、私たちもまた、①イクブンの不安と心細さを抱いて、②窓外の景色を眺めていた。ところが、京都から乗り込んできたひとりの女子高生が私たちの③トナリの席に座ったことで様相は一変した。④メツタにお目にかかれぬほどの美人だったからである。私も友人も何となく態度が落ちつかなくなり、口数も減っていった友人が **A** その女子高生に話しかけたのは静岡を過ぎてからであった。

それから半年たったころ、友人の父が死んだ。彼は家業の運送店を⑤継ぐために、進学を断念した。私はといえば、受験勉強などそつちのけで、小説ばかり読みあさっていた。だが二人の心の中から、列車で知り合った女子高生の⑥面影は消えなかった。私たちは会うとその話ばかりしていた。ある日、ジャンケンで負けたほうが、彼女の集家に電話をかけようということになった。私が負けて、ダイヤルを回すと、ちよと何かの用事で京都から帰って来ている彼女が出てきた。⑦無事試験に合格し、丸太町の親類の家に下宿しているのだという。

「⑧ところで、あなた、二人のうちのどつち?」と彼女がきいたので、私はほんの⑨ジョウダンのつもりで、友人のほうの名を言った。しばらく考えてから彼女はこう囁いた。「会うのなら、あなたと一人だけで会いたいな。」⑩私は黙りこくつたまま、じつと電話をにぎりしめていた。そしてそのまま電話を切った。もつとまい方法があつたはずなのに、十八歳の私は打ちひしがれて、ほかにどうしていいのかわからなかつたのである。「なあ、どうやった? どない言うつた?」友人は **B** 何度もきいた。私は嘘をついた。

彼女は受験に失敗して⑪ツトめに出ている、もう電話などしないでほしい、そう言つてガチャンと電話を切られたと説明した。「ふうん、見事にぶられたなあ。」友人はペロリと舌を出して笑った。

このことは、いつまでも私の中から消えなかった。生まれて初めての失恋が、私の心に傷を残したといふのではない。私は自分のついでにきた数多くの嘘の中で、⑫この嘘だけを決して自分でも許すことができなかった。私がいまそれを文章にできるのは、につつき恋敵であるその友が、父通事故で死んでからもう十年もたったからである。

(宮本 輝『二十歳の火影』より)

問一 傍線部⑦～⑩のカタカナを漢字に直し、波線部⑪～⑫の漢字の読みを答えなさい。

問二 空欄Aにあてはまる語句を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 気にとめて イ 意を決して ウ 気を許して エ 意のままに

問三 空欄Bにあてはまる語句を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 目を輝かせて イ 目をそらして ウ 目を凝らして エ 目を鼻張つて

問四 傍線部①「ところで、あなた、二人のうちのどつち?」という彼女のことは聞いて、「私」はどのように考えたか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 半年も前のことなのでよく覚えていないらしいと不満げに考えた。
 イ どうも彼女は「私」と話をしたがつているようだと漠然と考えた。
 ウ 電話の相手が「友人」であることを確かめたいのだと深刻に考えた。
 エ 彼女も何か意図があつて言つたわけではないだろうと軽く考えた。

問五 傍線部②「私は黙りこくったまま、じつと電話をにぎりしめていた。そしてそのまま電話を切った」とあるが、このときの「私」の心情の説明として最も適切なことばを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 意気消沈 イ 自暴自棄 ウ 周章狼狽 エ 悲憤慷慨 オ 茫然自失

問六 本文には次の一文が抜けている。あてはまる箇所の直後の五字を答えなさい。(句読点を含む)

そんな気持ちを和めようとして、自然に口数だけは多くなっていた。

問七 友人の屈託のない明るい性格がよく描かれている部分を、本文中から二十字以内で抜き出さなさい。(句読点を含む)

問八 傍線部③「この嘘だけを決して自分でも許すことができなかつた」とあるが、それはなぜか。二十字以内で簡潔に説明しなさい。(句読点を含む)

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

表現手段の多様化、視点の差異化は、しばしばそれ自体が目標となり、そのとき思想不在のアリバイ作りが始まる。そのようなアリバイ作りの最新のスローガンが、「感性の時代」という流行語である。しかし、感性は過去の思想を否定するきっかけではあっても、それだけでは思想を創りはしない。日本のマーケティング技術の発明した「感性の時代」というスローガンは、まさに思想の衰弱の時代を代表するのにふさわしい。

感性(＝感受性)は思想の材料ではあっても思想ではない。感性に^①ドンカンな思想は、死んだ思想だが、思想のない感性は、歴史を切り開く力を持たない。今日言われている「感性」への^②ケインヤの中に、思想への努力がないとまでは言うまい。これまで支配的だったいわゆる「知性」や「理性」のパラダイムに対して、新たな世界イメージ(思想)を模索する試みがあり、それらが自らを適切に呼ぶ術を知らないままに「感性」と称している場合もある。川久保玲や山本耀司や中島みゆきは、可能性を秘めた思想の実践家かもしれない。ビートたけしは、自らの^③ブライを知るだけに自前の思想を持っているのかもしれない。しかし^④彼ら現代のアーティストの危うさは、他人の思想にただ乗りする大衆に、わけもなく飽きやすい大衆に、消費財を売りつけながら自分の筋道を通していくという綱渡りを強いられているところにある。大衆の平均化された感受性が彼らをすり減らしてしまう危険からどうして身をかわしていくのか。大衆にとって、感性の時代はおそらく、空白を借り物の思想で埋めながら、時折、感受性への刺激を楽しむということにしかならないだろう。^⑤こともあろうに、この状態を「個性の時代」と呼ぶ人もいる。しかし人間に個性と言われるものがあるとすれば、自分のインテグリティを持ち、思想を持つこと以外にない。外見、ファッション、当前流行の情報のペダントリーは、個性の表現と全く無関係とは言わないが、その^⑥些末な一部分にすぎない。

二十世紀末というこの現時点で言えば、確かに合理主義の思想は過去への逃走だろうが、^⑦感性主義もまた未来からの逃避である。いずれも思想の^⑧ソウシツを償いはしない。言うまでもなく、ここでのいう思想は、統一された科学を意味しないし、^⑨ユイイツの正しい道徳や理想の体系を意味してもいない。その意味で思想がすべてを解決するわけではないが、A。人類が思想を失うとき、人類という名の社会はもはやあり得ない。社会は個人によって構成されているという。しかし個人とは、単なる生物の個体ではなく、それぞれにある程度一貫した考え方の担い手であるからこそ個人である。したがって社会を^⑩俯瞰すれば、それはさまざまの思想の集まりであり、社会の變化

は、さまざまな思想の相互作用として、言ってみればダイアレクティブ（弁証法）として現れる。こうしてさまざま
な思想の競争が社会を作り、社会は思想に競争の場を与える。

※ヘラタイム…ある時代に支配的なものの考え方。

※インテグリティ…一貫性

※ペダントリ…専門的すぎるさま

(村上泰亮『感性という名のアリビイ』より)

問一 傍線部㉗く㉘のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部㉑と㉒のことばの意味で適当なものを選びなさい。

㉑ 些末

ア ちよつとしたこと

ウ 終わりの部分

イ おおげさなこと

エ 大切なこと

㉒ 俯瞰

ア 中心に据えること

ウ 高い所から見下ろすこと

イ ゆっくりと移動させること

エ 誤解して判断すること

問三 傍線部①「彼ら現代のアーティストの危うさ」 について、何が「彼ら」を「危う」くするのか。文中より十五
字以内で抜き出しなさい。

問四 傍線部②について、次の問いに答えなさい。

(一) 「この状態」とは、具体的にどのようなことをさしているか。傍線部②より後の文中から二十五字以内で
抜き出しなさい。

(二) また、筆者の考える個性とはどのようなものか。二十五字以内で述べなさい。

問五 空欄Aに入れるのに最も適当な言葉を次から選びなさい。

ア 社会は新しい思想を創造する

イ 思想なしに社会は成立しない

ウ 思想の相互作用は社会を崩壊させる

エ 人類という名の社会は存在しない

オ 道徳や思想の体系は必要である

問六 傍線部③「感性主義もまた未来からの逃避である」とあるが、筆者はなぜそのように考えているのか。文中の
言葉を用いて五十字以内でその理由を説明しなさい。

平成十九年度生 入学選考試験 国語〔特待生入試〕 解管用紙

受験番号

氏名

問一	オ	ア	幾分	イ	隣	ウ	減多	エ	冗談	2点×10						
	d	ア									勤め	a	そうがい	b	けしき	c
問二	イ	問三	ア	問四	エ	問五	オ	問2・3 3点 問4・5 4点								
								問六	と	こ	ろ	が	、	5点		
問七	友	人	は	ペ	口	リ	と	舌	を	出	し	て	笑	っ	た	6点
問八	自	分	を	信	じ	て	疑	わ	な	い	友	人	を	裏	切	6点

問一	ア	鈍感	イ	傾斜	ウ	無類	エ	喪失	2点×5								
	オ	唯一		傾斜		無類		喪失									
問二	a	ア	b	ウ	3点×2												
問三	大	衆	の	平	凡	化	さ	れ	た	感	受	性	6点				
問四	(一)	外	見	、	フ	ア	ツ	シ	ヨ	ン	、	当	節	流	行	の	7点
	(二)	自	分	の	イ	ン	テ	グ	リ	テ	イ	と	思	想	に	裏	7点
問五	イ	5点															
問六	一	慣	性	・	時	続	性	の	あ	る	思	想	に	支	え	8点	
歴	史	を	切	り	開	く	こ	と	は	で	き	な	い	か			